国語科（古典Ｂ）学習指導案

指導者　青　ちづる

一　日　時　　平成二十九年十一月十四日（火）　第五限

二　学　級　　第三学年二組（男子　十七名　女子　二十四名）・・文系クラス

三　場　所　　視聴覚教室

四　単　元　　古典を読んだ後に、実際に短歌の創作、批評を行うことで、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしよう。

五　単元の目標

（１）　古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。（関心・意欲・態度）

（２）　古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。（読む能力）

（３）　古典を読んで、我が国の文化の特質について理解を深める。（知識・理解）

六　取り上げる言語活動と教材

（１）　実際に短歌を創作し、批評し合うことで、筆者のものの感じ方を実感し、自分自身の感じ方を豊かにする。

（２）　教材　『無名抄』「俊成自讃歌のこと」鴨長明　（『古典Ｂ』数研出版）

七　単元の具体的な評価規準

（１）　古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。（関心・意欲・態度）

（２）　古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。（読む能力）

（３）　古典を読んで、我が国の文化の特質について理解を深めている。（知識・理解）

八　指導観

（１）　単元観

生徒の苦手な和歌についての教材であるが、登場人物による和歌への評価が読み取れて、それをきっかけに自分の創作につなげることができる教材である。

（２）　学習者観

学習態度は良好であり、積極的に発言する生徒も多い。短歌の創作は前年度から数回行っているが、創作に困難を覚えるものの、発表や批評は楽しんで行うことができる生徒が多い。普段からアクティブ・ラーニング型の授業に慣れているため、違和感を覚えることなく活動できると思われる。

（3）　教材観

生徒が苦手意識を持ちやすい歌論であるが、実際に自分でも創作・評価することによって、俊恵のものの感じ方を理解し、さらに、自分のものの感じ方を豊かにできる教材である。

九　単元の指導計画

次 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法
第1次 3時間	・本文の内容を読解する。 ・特に、俊恵のものの感じ方を正しく理解する。	・語句の意味や文法事項について確認させる。 ・読解の際は、生徒に説明・質問をさせ、教師が補足する。	◇（1）（2） ◆記述の確認（予習プリント・ノート）
第2次 3時間 （3時間中の2時間目が本時）	・心情語を用いずに、心情を想像させる短歌を創作し、発表する。また、他の班の短歌を批評する。 ・振り返りを行う。	・4～5名を一つの班とし、「心情語を用いずに、心情を想像させる」という条件に合う短歌を作らせる。また、他の班の作品を批評する際も、その観点で批評するように留意させる。 ・本文に戻り、俊恵の批評を再確認させるとともに、その感じ方について理解を深めさせる。	◇（1）（2） ◆記述の確認（ワークシート） ◆行動の確認（発表の内容）

十　本時の目標

心情語を用いることなく、心情を想像させる短歌を作り、それを発表・評価することで俊恵のものの感じ方を理解しようとしている。（読む能力）

十一　本時の評価規準

心情語を用いることなく、心情を想像させる短歌を作り、それを発表・評価することで俊恵のものの感じ方を理解している。（読む能力）

十二　本時（全六時間中の五時間目）の指導

学習段階	学習内容	学　習　活　動	言語活動における指導上の留意点
導入 ５分	・本時の学習内容を知る。	・進行役の生徒が説明する。	・必要に応じて補足する。
展開 ４０分	・班ごとに発表を行う。 （１～７班） ・発表以外の班は評価する。	・短歌を発表する。 ← ・他の班は、心情語が用いられているかどうかと、どのような心情が詠み込まれているかを班で協議する。 ← ・指示された班の生徒が、自分たちが読み取った心情を発表する。 ← ・発表する班の生徒は、自分たちが詠み込んだ心情を説明する。 ← ・他の班は説明を聞いた上で、ルーブリックを用いて評価する。 以下、これを繰り返す ・すべての発表が終わったら、班ごとに優秀作品を選ぶための協議をする。 ・各班、優秀作品として選んだ短歌に花をつける。 ・優秀作品を発表する。	・発表が円滑に進行するように観察・補助する。 ◆記述の確認（発表用紙） ◆行動の確認（発表の内容） ・評価基準をもう一度確認させる。
終結 ５分	・本時の学習内容を振り返る。	・振り返りシートを用いて、本時までの取り組みを自己評価する。	・本時の学習内容を振り返らせる。振り返りの大切さに気づかせたい。 ◆記述の確認（振り返りシート）

十三　評価の観点とルーブリック

項目A

レベル	心情語を用いずに短歌を創作できているか。
5	心情語を全く用いずに、想像させる短歌を創作することができている。
3	心情語そのままではないが、心情と直結する表現を用いて短歌を創作している。
1	心情語を用いて短歌を創作している。

項目B

レベル	表現しようとした心情が正しく伝わる短歌の創作ができているか。
3	表現しようとした心情が正しく伝わる短歌の創作ができている。
2	表現しようとした心情がなんとなく伝わる短歌の創作ができている。
1	表現しようとした心情が伝わらない短歌を創作している。

十四　御高評

「短歌創作」ワークシート

三年　　組　　番　氏名（　　）

班員

テーマ

高校生活の中で、「身にしみる」（＝深く感じる）場面を思い浮かべて、歌にしよう。
具体的な場面や心情は各班で考える。

☆心情語を用いずに、心情が想像できる短歌を作ろう

一　場面

二　伝えたい心情

三　完成した短歌

評価シート　（班まとめ用）

班	班員					

一　本時のルーブリック

項目Ａ「心情語を用いずに短歌を創作できているか。」

心情語を全く用いずに、想像させる短歌を創作することができている　１
心情語そのままではないが、心情と直結する表現を用いて短歌を創作している　３
心情語を用いて短歌を創作している。　５
例　「涙」「ほほえみ」「鼻歌を歌う」「足どりが重い」・・・など

項目Ｂ「表現しようとした心情が正しく伝わる短歌の創作ができているか。」

表現しようとした心情が正しく伝わる短歌の創作ができている　３
表現しようとした心情がなんとなく伝わる短歌の創作ができている　２
表現しようとした心情が伝わらない短歌を創作している　１

班	作品（メモ程度）	想像できる設定及び心情	Ａ	Ｂ	計						自分の班

評価シート

三年　　組　　番（　　）

項目

☆心情語を用いずに心情を想像させる短歌の創作ができているか。

心情語を用いずに、心情を想像させる短歌を創作することができている　5

心情語は用いずに創作しているが、心情を想像することが難しい短歌になっている　3

心情語を用いて短歌を創作している。　1

班	A	B	合計	批評欄
自分の班（自己評価）				

ふりかえりシート

三年　　組　　番（　　）

☆　次の一と二はあてはまるところに〇をつけ、三と四は記述してください。

一　今回の活動で、心情語を使わずに、心情を想像させることのおもしろさを味わうことができましたか？

よくできた　・　まあまあできた　・　あまりできなかった　・　全くできなかった

二　班の一員として主体的・協力的に活動に参加することができましたか？

よくできた　・　まあまあできた　・　あまりできなかった　・　全くできなかった

三　この活動で、「できたこと」や「できるようになったこと」を書きましょう。

四　この活動で、「できなかったこと」や「難しかったこと」を書きましょう。